

「やまぐち学習支援プログラム」については、実際に使われた先生方もいらっしゃると思います。今回はこの「学習支援プログラム」(<http://shien.ysn21.jp/teacher/gakushi.html>)について紹介します。

「活用」に関する問題への声 平成19年度の全国学力・学習状況調査が行われた後、「活用」に関する問題について、学校現場の様々な声をお聞きしました。

「とても難しく、時間が足りない子どもが多かった。」

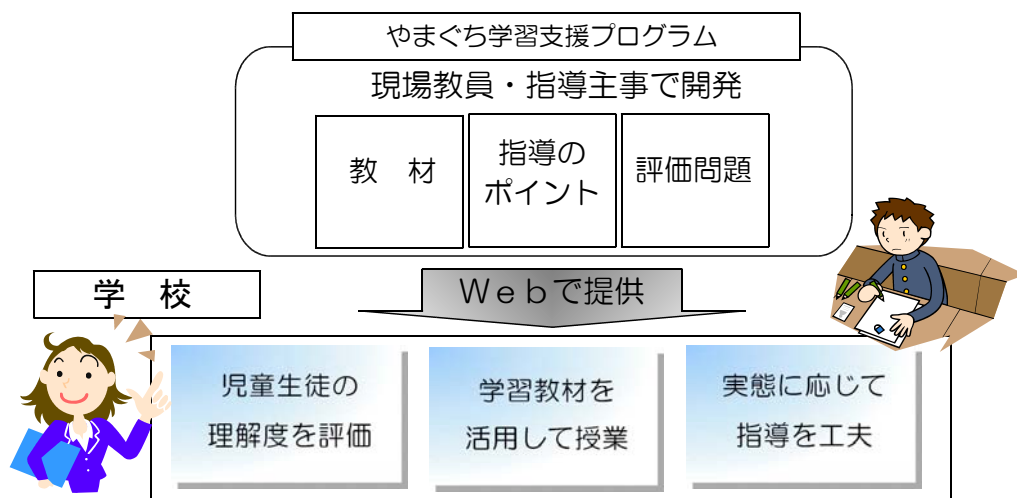
「このような問題をやったことがない。」

「これからは、このような問題にも対応できる力を育てていかなければいけないことが分かった。」

授業で使える教材を提供

このような声とともに、「活用」に関する問題の正答率が低いという平成19年度調査結果を踏まえ、県内の先生方の協力を得て作成したのが「やまぐち学習支援プログラム」なのです。

「活用」について課題があることは把握していても、具体的な指導方法で戸惑っている学校、先生方も多いのではないかと考え、授業改善に直接つながるよう、「授業で実際に使う教材」、「その教材を授業で取り扱う際の指導のポイント」、「評価問題」をプログラムの内容としました。また、教材等の追加・修正が可能であることから、ウェブでの配信という方法にしています。



教材＋指導のポイント

実際に掲載している教材を紹介します。小学校の国語の例です。子どもたちに、次のような説明文とグラフを示します。

みなさんは、山口県のそれぞれの地域でどのような農作物が作られているか知っていますか。

山口県南東部に位置する柳井市は、瀬戸内海に面していて日当たりがよく、県内でも暖かいところです。

柳井市でさかんに作られているのは、いちごです。いちごを作っているビニルハウスの中を電球で明るくしたり、ヒーターで温めたりすると、冬でも春と同じ気温になり、いちごを収穫することができるのです。

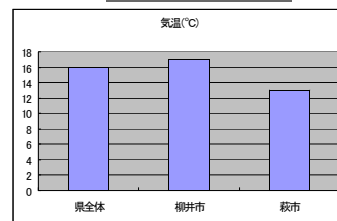
一方、山口県北部に位置する萩市は、県内全体に比べて、年間平均気温が三度くらい低いところです。萩市の中でも特に、千石台は、約四〇〇から五〇〇メートルの高さの台地にあるため、夏の気温が他の地域より十度くらい低いことが特色です。

千石台では、夏のすずしい気候を利用して、だいこんがさかんに作られています。だいこんは、冬が旬の野菜ですが、千石台では、五月から十二月まで収穫することができるのです。

このように、それぞれの地域の気候に適した農作物がさかんに作られているのです。

← 説明文 (実際は縦書き)

↓ グラフ①



(山口県各地の年間平均気温)

そして、次のように投げかけます。



あなたが、この説明文をクラスみんなの前で発表することになりました。

グラフ①の他に、どのような資料を使って発表すれば、クラスみんなに分かりやすく伝えることができると思いますか。資料と選んだ理由を書きましょう。

【資料の例】

- 等高線入りの山口県地図
- いちごのビニルハウス、だいこん畑の写真
- 柳井市、萩市(千石台)の航空写真
- 県内各地の年間降水量のグラフ
- いちご農家の方、だいこん農家の方のお話
- 県内各地の月別気温の折れ線グラフ

指導のポイントでは、資料の例の選択肢から「この説明文では使う必要の無いもの」を考えさせ除外しておく活動を取り入れること、社会科「地域の農業」と関連付けた展開ができることなどが示されています。

ここで紹介したのは小学校国語での例ですが、プログラムには小学校3年生から中学校3年生までの国語、算数・数学の教材を掲載しています。プログラムの教材でそのまま授業することもできますが、児童生徒の実態を踏まえて、発問等指導方法を工夫して使うこともできます。先日プログラムの教材を使った授業研究会に参加しましたが、教材に地域の素材を取り入れるなど、効果的な工夫がみられました。

思考力・判断力
・表現力等の継続的な育成

「やまぐち学習支援プログラム」に今後掲載する評価問題には、設定通過率を示しますので、その精度をより高いものにしたと考え、「確認問題」の実施をお願いしました。第1回目の実施にあたっては、多くの小学校に御協力いただき、本当にありがとうございました。貴重なデータを活用し、評価問題の充実に力を尽くしてまいります。

「確認問題」のうち、自分で考えて答えを記述する問題の正答率が、想定していた正答率より低い傾向がみられました。上記のような問題の県全体の正答率は、10%～45%程度にとどまっています。

このような実態とともに、学習指導要領の改訂の基本方針を踏まえると、思考力・判断力・表現力等の育成のための指導を充実するのを感じています。このような力は一朝一夕に高まるわけではないので、授業を通して継続的に指導していくことが必要です。手をこまねいているわけにはいきません。

各学校においても、実態に応じ指導方法の工夫・改善を図られることと思いますが、県内の先生方の英知を結集した「やまぐち学習支援プログラム」の教材も是非御活用ください。